

宇宙

京都教育大学附属京都小中学校 六年 寺内^{てらうち} 紗優^{さゆう}

詩を書いている時。

作文を書いている時。

何かを書く時

私の頭の中は宇宙になっている

頭という宇宙に

言葉という星が

無数に浮いている

そして

使いたい表現

考えが一つにまとまって

わく星となる

言葉に悩む

宇宙の中から

丁度いい星を探す

見つからない

あきらめよう

そう思った時

新しい星が誕生した

花 火

北九州市立西小倉小学校 五年

河合

博輝

ヒュー、ドン、パラパラパラ

たくさんの光のあとに音が鳴る

パラパラパラ

ぼくはあの花火の音が好き

ドン、ドンッ

おくれて響くあの花火の音が好き

響くのは音だけじゃなくて

花火のしん動

ぼくの胸の奥の奥に

おくれて届く

あの花火の音が好き

ぼくの心にいつまでも残る花火

土の湖

京都教育大学附属京都小中学校

六年

井上 いのうえ

昊祐 こうすけ

放課後

運動場にかけこんだら

しめった土が

水面みなものように光っていた

足をふみ出すたびに

光がまばゆく点滅する

太陽が

ぼくを見下ろして

さようなら

と声をかける

空を見上げたその時

虹色の光がぼくを包んだ

思わず目をふさぐ

目をあけると

いつもの運動場が広がっていた

空には

入道雲が広がっていた

見透かされる心

京都教育大学附属京都小中学校 六年 森^{もり}

凜佳^{りんか}

ネコは私のことをじっと見ていた

私の心を見透かしたように

友達とけんかした

意地ばかりはって

「ごめん」

の一言も言えへん

ウチのバカ

なんでそんな簡単な事も できひんの

ウチなんかきらい

小さな小道に入ったとき

あるネコと出会った

その目は

私を見ていた

こわいぐらい じっと

あ
め

北九州市立曾根小学校 一年

蔵本 くらもと

昂空 あから

ピタ、ピタ、ピタ。

あめが とまった。まったく。

ピタン、ピタン、ピタン。

そしてはながさいた。

ひらいた。

あめがとまった。